



中井町

まち・ひと・しごと創生

総合戦略

素案

平成27年10月

目次

1、 基本的な考え方	2
1-1 総合戦略について	2
1-2 取組の考え方	3
1-3 総合戦略の対象期間とマネジメント	3
2、総合戦略	5
2-1 中井町総合戦略の概要	5
基本的戦略 1	
「事業者連携による地域経済力の向上戦略」	7
① 基本目標	7
② 基本的方向性	7
③ プロジェクト	8
基本的戦略 2	
「なかいの“ ^{・・ちから} まち力”による交流と定住の促進戦略」	10
① 基本目標	10
② 基本的方向性	10
③ プロジェクト	11
基本的戦略 3	
「身近な自然と ^{・・・ひと} なかい人に支えられた出産・子育て戦略」	15
① 基本目標	15
② 基本的方向性	15
③ プロジェクト	16
基本的戦略 4	
「なかいの暮らしブランディング戦略」	18
① 基本目標	18
② 基本的方向性	18
③ プロジェクト	19

1、基本的な考え方

1-1 総合戦略について

中井町まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、「中井町総合戦略」という。）は、まち・ひと・しごと創生法第10条（※1）に基づいて、併行して策定する「中井町人口ビジョン」を踏まえ、国が定める総合戦略及び県が定める総合戦略を勘案して定めるものです。

中井町総合戦略の策定にあたっては、国が示す「まち・ひと・しごとの創生に向けた政策5原則（※2）」に対応した施策を位置づけるものです。

※1：まち・ひと・しごと創生法

（市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略）

第十条 市町村（特別区を含む。以下この条において同じ。）は、まち・ひと・しごと創生総合戦略（都道府県まち・ひと・しごと創生総合戦略が定められているときは、まち・ひと・しごと創生総合戦略及び都道府県まち・ひと・しごと創生総合戦略）を勘案して、当該市町村の区域の実情に応じたまち・ひと・しごと創生に関する施策についての基本的な計画（次項及び第三項において「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」という。）を定めるよう努めなければならない。

※2：まち・ひと・しごとの創生に向けた政策5原則

人口減少克服・地方創生を実現するため、5つの政策原則に基づき施策を展開する。

- ① 自立性 ・構造的な問題に対処し、地方公共団体、民間事業者、個人等の自立につながる。
- ② 将来性 ・地方が自主的かつ主体的に、夢を持って前向きに取り組むことを支援する。
- ③ 地域性 ・各地域の実態に合った施策を支援。国は支援の受け手側の視点に立って支援。
- ④ 直接性 ・最大限の成果をあげるため、直接的に支援する施策を集中的に実施する。
- ⑤ 結果重視 ・PDCA メカニズムの下、具体的な数値目標を設定し、効果検証と改善を実施する。

1-2 取組の考え方

中井町総合戦略は、人口ビジョンを踏まえ次のような考え方に基づいて策定しました。

① 若いファミリー世帯による活気を創出する。

少子化高齢化が進む中井町では、人口の減少幅を抑制し、また人口の年齢構成のバランスの改善を目指す必要があります。そのために、20歳代から30歳代のファミリー世帯の転出を抑制し転入を促進するために若い世帯に支持される施策を講じ活気を創出します。

② 里山など自然環境の魅力を際立たせる。

中井町は、東名高速道路秦野中井インターチェンジがある町として交通条件に恵まれている一方で、里山など豊かで身近な自然環境を有し、町民も企業もその恩恵を享受しながら生活しています。このような自然がもたらす魅力を一層際立たせることにより「豊かな中井ライフ」を創造します。

③ 協働とチャレンジによる活力づくり。

中井町では、農業では多様な農作物が生産され、新しい農家も生まれています。また町には多様な企業、事業所が進出していますが、必ずしも町民と企業・事業所の連携が図られていません。そこで、農家などの住民と町内の企業・事業所との協働（コラボレーション）により新しいチャレンジが生まれるようにします。

1-3 総合戦略の対象期間とマネジメント

中井町総合戦略の実効性を高めるとともに、適切で柔軟な進行管理を行うために、数値目標の設定、第三者機関による客観的な効果検証、円滑なPDCAサイクルの実施を行います。

① 対象期間

中井町総合戦略の対象期間は、平成27年度から平成31年度の5カ年とします。この中井町総合戦略は、中井町総合計画との調整を図りながら実施しますが、国からの財政的支援の状況、県との調整、施策の効果検証等を勘案しながら必要な見直しを行うこととします。

② 数値目標の設定

実現すべき成果に係る数値目標を設定します。また、具体的な施策については、客観的な重要業績評価指標（K P I 又はK G I ※3）を設定します。これにより実施状況や施策の実施状況が検証しやすくなります。

③ 検証機関

中井町総合戦略の策定にあたって設置した「中井戦略みらい会議」に検証機関を設け、検証と中井町総合戦略の見直しの提言ができるようにします。

④ 円滑なP D C Aサイクルの実施

以上の措置によりP D C Aサイクル（※4）を通して、中井町総合戦略の検証から改訂にいたる一連のサイクルが適切に行われるようにします。

※5：K P I，K G I

K P I（重要業績評価指標）：施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標。

K G I（重要目標達成指標）：施策ごとの目標（ゴール）に対する達成度合いを定量的に示す指標

※4：P D C Aサイクル

計画に基づいて施策を実施し、実施した施策の検証を行い、検証結果に基づいて計画を見直し改訂する一連のサイクル

Plan:計画

Do:施策の実施

Check:検証

Action:見直し、改訂

2、総合戦略

中井町第一次総合戦略の概要

基本的戦略	プロジェクト	施策
基本的戦略 1 「事業者連携による地域経済力の向上戦略」	プロジェクト 1 【なかい・ふるさと名産品開発と販促プロジェクト】	○特産品創出事業 ○特産品販売促進事業 ○健康農産物の栽培と開発
	プロジェクト 2 【若手農家育成プロジェクト】	○新規就農者支援事業
	プロジェクト 3 【起業、創業支援プロジェクト】	○起業、創業、店舗開業、在宅ワーク支援 ○空き家バンク事業（起業向け）
基本的戦略 2 「なかいの“まち力”による交流と定住の促進戦略」	プロジェクト 1 【情報環境利便性向上都市プロジェクト】	○公衆無線 LAN 環境の整備 ○情報コンテンツ開発事業
	プロジェクト 2 【定住促進のための住宅政策プロジェクト】	○持家及び増改築支援事業 ○“中井の暮らし”アピール事業 ○住宅・空き家バンク事業（住宅向け） ○若者向け地域優良賃貸住宅の導入
	プロジェクト 3 【大学、企業と連携した定住促進プロジェクト】	○学生町内居住支援事業 ○町内居住学生就業支援事業
	プロジェクト 4 【健康とスポーツ交流プロジェクト】	○「スポーツの町」事業 ○「健康寿命日本一の町」事業 ○「ネイチャーツーリズムの町」事業
基本的戦略 3 「身近な自然となかい人 に支えられた出産・子育て戦略」	プロジェクト 1 【安心子育てプロジェクト】	○保育料・給食費助成事業 ○高校等通学定期券購入補助事業 ○出産祝い金事業 ○なかいネウボラ事業
	プロジェクト 2 【地域ぐるみで子育てプロジェクト】	○地域の専門家が先生事業 ○若いファミリー向け地域優良賃貸住宅の導入

	プロジェクト3 【ふるさと回帰プロジェクト】	○30歳のふるさと回帰イベント
基本的戦略4 「なかいの暮らし」ブランディング戦略	プロジェクト1 【中井の利便性向上プロジェクト】	○デマンドバス利用促進事業 ○路線バス運行時間短縮化事業
	プロジェクト2 【生活拠点づくりプロジェクト】	○役場周辺地区「中心拠点」整備基本構想策定 ○「小さな身近な拠点」づくり事業
	プロジェクト3 【大学と連携した知名度向上プロジェクト】	○シティプロモーション事業 ○なかい・暮らしの誇り発掘事業 ○町中の「見える化」事業 ○音の出る道路事業
	プロジェクト4 【里山と農のある風景づくりプロジェクト】	○荒廃地管理協働事業 ○農の仕事事業

国の政策分野①地方における安定した雇用を創出する

基本的戦略 1 「事業者連携による地域経済力の向上戦略」

① 基本目標

中井町には、豊かな自然環境の中で農業が営まれ、環境と調和して工業団地があります。この農業と町民のアイデアやグリーンテクなかい等に進出する企業等の力と連携して地域の経済力を向上させます。

項目	目標値（H31）	
従業者数	新規雇用者数〇〇人増加	
農業従事者数	新規農業従事者数〇〇人	

② 基本的方向性

○町民、農家、企業、町が一体となって中井の特産品を開発し、中井の立地性を活かして販路開拓を行うなど、農業の六次産業化により新しい雇用を創出します。

○農家と企業が連携して中井の特産品を開発し遊休農地の活用を図り農業を活性化させます。

○起業、創業、在宅ワークなど多様な働き方を創出します。

○プロジェクト

プロジェクト1 [(農家企業連携による) なかい・ふるさと名産品開発と販促プロジェクト]

○地域の農産物と乳製品工場などと連携して新しい製品を開発し移動販売、景勝地、直販所などで販売をします。

○農家と企業が連携して、遊休地などを活用して健康茶や漢方薬の栽培と開発を行います。

具体的な施策	重要業績評価指標	備考
○（農家企業連携による）特産品創出事業 農家の農産物、地元工場の乳製品等との組合せにより名産品を開発します。また、農家と住民、企業従業員との連携によりお惣菜などの特産品や竹林の竹や竹炭を使った製品を開発します。これらの特産品には「なかいブランド」と命名します。	なかいブランド 10 種類開発 協力企業件数 3 社 協力農家件数 5 戸	<主な主体> 農家、町民、企業、従業員、町
○（農家企業連携による）特産品販売促進事業 なかいキッチンカーを制作し「なかいブランド」の調理と販売を地域の景勝地や公園などで行います。また、東名高速道路秦野中井パーキングエリアや「道の駅、町の駅」に物産販売所を設置し「なかいブランド」の調理と販売を行います。	「なかいブランド」販売所 3 か所	<主な主体> 農家、商業者、町民、企業、町
○（農家企業連携による）健康農産物の栽培と開発 企業と連携して健康茶や漢方薬を開発し、農家が栽培、企業が商品化するとともに、直販所、東名高速道路秦野中井パーキングエリア等を通して普及します。	健康茶栽培農家 5 戸 健康茶栽培面積 20a	<主な主体> 農家、企業、町

プロジェクト2【若手農家育成プロジェクト】

○新規就農者を誘致するとともに、新規就農者に対して多様な経営支援を行います。

○新規就農希望者に対して立地条件や農業経営条件や生活条件等のPRを行います。

具体的な施策	重要業績評価指標	備考
○（指導、器具、住宅付）新規就農者支援事業 農業の維持発展のために若手の確保を図るため、住宅確保の支援をする とともに、新規就農者に対し給付金を支給します。 また、町内の新規就農者に対して、作業小屋や洗浄機器、出荷作業機器の貸し出しの斡旋や賃料を助成します。	新規就農者 ○戸、経営耕地面積 ○○a	<主な主体> 町

プロジェクト3【起業、創業支援プロジェクト】

○企業、金融機関と連携して起業、創業、在宅ワーク等に対する支援を行います。

○起業、創業、在宅ワーク等を検討している住民に空き店舗や空き家を紹介します。

具体的な施策	重要業績評価指標	備考
○（企業、金融機関と連携した）起業、創業、店舗開業、在宅ワーク支援 起業、創業、在宅ワークを希望する住民に、企業、金融機関等と連携して技能取得や経営のノウハウ等の支援やセミナーを開催します。また、新製品やサービスの開発支援を行います。	起業、創業、店舗開業、在宅ワーク相談件数	<主な主体> 企業、金融機関、専門家、町
○空き家バンク事業（起業向け） 空き家を調査し民間と連携してホームページ等で掲載する。また、自治会等と連携し情報の更新を行います。 起業、創業、在宅ワーク等を検討している住民に空き店舗や空き家を紹介します。	空き家相談 年○○軒	<主な主体> 町民、企業、金融機関、専門家、町

国の政策分野②地方への新しいひとの流れをつくる

基本的戦略2 「なかいの“^{ちから}まぢ力”による交流と定住の促進戦略」

① 基本目標

里山などの自然力と美しい景観の中でスポーツができる中央公園、ジョギングや散策ができるネットワーク、子どもからお年寄りまで楽しめる公園は町の財産です。健康な町民はすべて中井の宝です。この財産や宝を活かして企業や研究機関と町民が連携して交流人口と定住人口の増加を促進します。

項目	目標値（H31）	基準値
交流人口	〇〇人（年間）	現況〇〇〇人
転入者	〇〇人（年間）	現況〇〇〇人

② 基本的方向性

- 観光施設、スポーツ施設、学校、防災拠点等で公衆無線 LAN 環境を整備し、公園やスポーツで訪れる人、農家など屋外で働く人、公共交通利用者などの情報の利便性を向上させます。
- 自然環境と広域的道路ネットワークに恵まれた立地条件、比較的リーズナブルな住宅価格条件を活かして地元企業の従業員に対して、また世帯分離や I ターン U ターンによる町内での持家購入を促進します。
- 大学や企業と連携して定住化支援を行います。

③ プロジェクト

プロジェクト 1【情報環境利便性向上都市プロジェクト】

○学校や避難所などの公共施設に Wi-Fi スポットを設置し、普段は地域住民や観光客に向けた公衆無線 LAN サービスを提供します。

○観光情報・行政情報の配信にも活用を図ります。

○大学や企業と連携して情報コンテンツの整備を行います。

○非常時は防災面、平時は観光面での情報インフラの整備を図ります。

具体的な施策	重要業績評価指標	備考
○公衆無線 LAN 環境の整備 観光拠点では、移動環境に適した Wi-Fi により外国人等、観光客の利便性向上を図ります。防災拠点では、災害耐性の高い Wi-Fi により来訪者や住民の災害時の安全を確保します。	Wi-Fi 施設設置箇所 Wi-Fi カバーエリア	<主な主体> 町
○大学企業連携情報コンテンツ開発事業 大学、企業と連携して地域の情報、農業の情報、観光やスポーツの情報、健康の情報、天候の情報、防災の情報等のコンテンツを開発します。		<主な主体> 町

プロジェクト2【定住促進のための住宅政策プロジェクト】

○“中井の暮らし”をアピールする情報コンテンツを整備するとともにインターネットや小冊子、民間の情報誌を活用してPRします。

○ファミリー世帯や世帯分離に伴う転出を抑制するための持家購入、多世代居住のための増改築費用を助成します。また、転入促進を図り、定住人口の増加を目指すため、地元企業従業員やIターンUターン希望者に対して、町内での持家購入を促進します。

○戸建住宅や賃貸住宅の空き家情報バンクを民間と連携して整備し、定住型起業、新規居住希望者に情報を提供します。

具体的な施策	重要業績評価指標	備考
○持家及び増改築支援事業 町内での持家購入、二世帯・三世帯住宅への増改築をしようとする者に、購入費用・増改築費用の1/2を助成します。	本制度利用による転入者数の増（年間3件）	<主な主体> 町
○“中井の暮らし”アピール事業 “ウィークエンド農業”など中井の暮らしの特徴や魅力を選定しインターネットや小冊子でPRします。	フェイスブックで“いいね”1000件	<主な主体> 町、町民、企業
○住宅・空き家バンク事業（住宅向け） 空き家化を防止するため、また空き家を定住だけでなく、週末利用者、季節利用者等多様な需要を開発するとともに、賃貸又は譲渡したい住宅、空き家を調査し民間と連携してホームページ等で住宅情報を掲載します。	空き家相談 年〇〇軒	<主な主体> 町、町民、事業者
○若者向け地域優良賃貸住宅の導入 若者向け地域優良賃貸住宅を建設し若者の居住を促します。		<主な主体> 町、地権者

プロジェクト3【大学、企業と連携した定住促進プロジェクト】

○隣接する大学と連携し、大学生の町内居住を支援することにより転入促進とともに、若者の増加による町の活性化、大学までの通学経路を中心とした、人の流れを生み出します。

○また、就職を視野に入れた学生に対して大学や企業、金融機関と連携してインターシップや町内就職支援、起業支援を行うことによりソフト面でのメリットを感じてもらうことで転入促進や定住化を目指します。

具体的な施策	重要業績評価指標	備考
○学生町内居住支援事業 転入促進策として隣接する大学に在学もしくは入学を予定する者で、本町に転入（住民登録する者）に対し、入学支援金を助成します。在学期間中、中井町に住み続けること、自治会加入や活動への参加を助成要件とします。	本制度利用による転入者の増（年間10件）	<主な主体> 町、大学
○町内居住学生就業支援事業 “中井の暮らし”アピール事業 町内に住む学生を対象として、町内企業との連携により、インターシップの実施などにより就業支援を図るとともに、町内企業への採用による定住化施策とします。	インターンシップ実績 年間5件 町内就業者 合計〇人	<主な主体> 町、大学、企業

プロジェクト4【健康とスポーツ交流プロジェクト】

○中井町には、多目的広場、パークゴルフ場、野球場などが整備されている中井中央公園があります。また、中井中央公園から散策やジョギングを楽しむコースも整備されています。また、町民に身近な里山もあり町民は自然と共生しながら生活をしています。一方、地域には、健康器具メーカーも立地しています。

○このような特性を生かして健康とスポーツの町として交流人口の増加を促進します。

具体的な施策	重要業績評価指標	備考
○「スポーツの町」事業 スポーツ競技団体と連携し、中井中央公園をサッカーや野球の強豪校への優先貸出や練習試合を企画し試合観戦者を増やす。そのため民泊や食堂等を確保する。また健康維持のためのイベントを実施します。 また、町外の利用者が多いパークゴルフ場を活用し、パークゴルフ大会を企画します。	練習試合 観客動員数 パークゴルフ大会○○人参加（年間）	<主な主体> 町、指定管理者
○「健康寿命日本一の町」事業 健康器具メーカー等と連携し、健康寿命延伸のためのモニタリングを行います。	モニター 健康寿命延伸イベント	<主な主体> 町、企業、町民
○「ネイチャーツーリズムの町」事業 稀有な生物が豊富な町内の自然環境を生かし自然と共生できるネイチャーツーリズムの町とする。	ネイチャーツーリズム企画参加者○人	<主な主体> 町民、町

国の政策分野③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

基本的戦略3「身近な自然となか^{ひと}い人に支えられた出産・子育て戦略」

① 基本目標

身近な自然と暖かい地域コミュニティが中井町にはあります。その特性を活かすとともに、安心して子どもを生み育てるために経済的支援を行うことにより、合計特殊出生率をあげるとともに、子どもたちを増やします。

項目	目標値（H31）	基準値
子ども出生数	5人増加/年	現況〇〇〇人

② 基本的方向性

〇次代を担う子どもの成長と子育て家庭の経済的負担、バスによる通学に係る経済的負担の軽減を図ることや、出産・子育てに対する包括的支援を行うなど、子育てファミリー世帯が、安心して子どもを産み育てられることができるように出産から子育ての切れ目のない支援を行います。

③プロジェクト

プロジェクト1【安心子育てプロジェクト】

○子育てに係る経済的負担の軽減などを通じて、子ども・子育て支援の充実を図ります。

○通学に係る経済的負担の軽減などを通じて、教育支援の充実を図ります。

具体的な施策	重要業績評価指標	備考
○保育料・給食費助成事業 安心して子どもを産み育てられることができるように、町内の子どもの保育料助成と学校給食費の補助により、次代を担う子どもの成長と子育て家庭の経済的負担の軽減を図ります。	こども園、保育園、幼稚園の園児数増：3人 小学校、中学校の児童生徒の転校数減：3人 出生数の増：5人	<主な主体> 町
○高校等通学定期券購入補助事業 路線バスの通学定期券利用し、通学する高校生等の保護者の経済的負担を軽減します。	高校進学に伴う転出者数 0人	<主な主体> 町
○出産祝い金事業 出産祝い金を生まれる子どもの数に応じて給付します。	出生数	<主な主体> 町
○なかいネウボラ事業 妊娠から出産、子どもが生まれた後も基本的には6歳まで切れ目なくサポートを提供する総合的な支援サービスを行います。ネウボラには保健師や助産師を配置します。(町2) (参考) フィンランドでは、どの自治体にも「ネウボラ」という子育て支援を行う施設がある。ネウボラとは、フィンランド語で“ネウボ(neuvo)＝アドバイス”“ラ(la)＝場所”という意味。妊娠から出産、子どもが生まれた後も基本的には6歳まで切れ目なくサポートを提供する総合的な支援サービス。ネウボラには保健師や助産師がいる。	なかいネウボラ 1か所	<主な主体> 町、社会福祉協議会等

プロジェクト2【地域ぐるみで子育てプロジェクト】

○地域には様々な人材がいます。町民、企業の従業員から「地域の先生」を発掘し、小中学校生の実際の体験を通じた教育を行います。

○子育て世代の住まいを確保するため地権者と協力して良好な賃貸住宅を確保します。

具体的な施策	重要業績評価指標	備考
○ 地域の専門家が先生事業 地域の企業や団体の協力により、属する専門家が先生となり小中学生に「社会体験プログラム」を提供します。	「社会体験プログラム」回実施/年	<主な主体> 町民、企業、教育委員会
○ 若いファミリー向け地域優良賃貸住宅の導入 若いファミリー向け地域優良賃貸住宅を建設し若者の定住を促進します。	若いファミリー層定住 世帯数 世帯 人	<主な主体> 町、地権者

プロジェクト3【ふるさと回帰プロジェクト】

○就職、進学、結婚等を契機に一度中井を転出した若者を対象に「ふるさと回帰イベント」を行い、結婚やUターンのきっかけづくりを行います。

具体的な施策	重要業績評価指標	備考
○ 30歳のふるさと回帰イベント 30歳になった中井町出身者により「ふるさと回帰イベント」を実施し、結婚やUターンのきっかけづくりを行います。	中井町出身者のUター ン者 ○○人	<主な主体> 町出身者、小中学校卒業 者、教育委員会

国の政策分野④時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する。

基本的戦略4 「なかいの暮らし」ブランディング戦略

①基本目標

中井は、里山など自然環境、東名高速道路秦野中井インターチェンジ、県道 71 号秦野二宮線など広域幹線道路の良さ、隣接する自治体にある医療機関や商業施設などの利便性を活かしきれていません。また、住宅地としては身近な自然に恵まれゆったりとした生活をする事ができます。この環境の良さを一層際立たせるとともに鉄道駅がない弱点を克服するため、利便性と知名度を向上させます。

項目	目標値 (H31)	基準値
利便性の向上したとの回答する町民	〇〇%	現況〇〇〇人
公共バス交通円滑化	駅までの時間〇分短縮	現況〇〇〇人

②基本的方向性

○町内移動の便利さ向上

デマンドバスによる町内移動のサービスを向上させます。

○駅への移動の円滑化

路線バスによる最寄りの駅との移動時間を短縮します。

○知名度の向上

地域の特産品開発とともに「なかいの暮らし」そのものをブランディング化し中井町の知名度を向上させます。

③プロジェクト

プロジェクト1【中井の利便性向上プロジェクト】

○公共交通の利便性を向上し、交通弱者の移動しやすさを高めるために、マイカーと路線バスで最も移動時間差の生じる区間にバスロケーションシステムを導入し移動時間の短縮化をめざす

具体的な施策	重要業績評価指標	備考
○デマンドバス利用促進事業 町内のコンパクトな移動をデマンド交通でカバーする。高齢者や児童など交通弱者や買い物弱者の移動の確保をするオンデマンドバスの利用促進と町民の利用定着を図るため、お試し利用券（買い物支援券）を発行します。	デマンドバス利用者増加	<主な主体> 町
○路線バス運行時間短縮化事業 路線バスが優先的に通行するためのPTPS（公共車両優先システム）を導入し、乗車時間の短縮とバス利用者の利便性向上を図り利用を促進します。	路線バス利用者増加 最寄駅間移動時間短縮化	<主な主体> 町、バス運行会社

プロジェクト2【生活拠点づくりプロジェクト】

○県西地域活性化プロジェクトの推進を機に、観光・交流の拠点であり、未病いやしの里の駅でもある「中井中央公園」を含めた、役場周辺地区「中心拠点」整備を計画し、国・県の指導、協力のもとあらゆる手法を検討し、新たなまちづくりを推進します。

○集落ごとに「小さな拠点」づくりを進め住民の生活を支援します。

具体的な施策	重要業績評価指標	備考
○役場周辺地区「中心拠点」整備基本構想策定 「中井中央公園」を含めた、役場周辺地区について「中心拠点」整備計画を策定します。	計画策定	<主な主体> 町
○「小さな身近な拠点」づくり事業 町民にとっての身近な公共公益サービスを充実させるため、地区ごとに公共施設公益や商業施設等を活用して公民連携により「小さな拠点」づくりを行います。	「小さな身近な拠点」認定○箇所	<主な主体> 事業者、町

プロジェクト3【大学と連携した知名度向上プロジェクト】

○中井町は、歴史的な観光名所が存在する近隣地域と比較して比較的広域的に知名度が低い地域である一方で、東名高速道路秦野中井パーキングエリアなど知名度を高めるための場所も有効に活用できませんでした。

○中井で豊かに暮らす「誇り」を見つけるとともに地域のイメージアップを図る措置を講じます。また、県や大学と連携し知名度をあげるための「シティプロモーション」を行います。

具体的な施策	重要業績評価指標	備考
○シティプロモーション事業 神奈川県・大学との連携事業により町民参画指標を用いた「シティプロモーション」を行います。		<主な主体> 町、大学
○なかい・暮らしの誇り発掘事業 中井での豊かな暮らしを対外的にアピールするために「暮らしの誇り」「中井の暮らしの好い所」を町民参加、町内の市民参加により発掘します。	「なかい・暮らしの誇り」50件	<主な主体> 町民、町
○町中の「見える化」事業 ドローンを使ったリアルタイムの映像により町中の見える化を行う。映像を防災、観光、防犯等あらゆる行政、まちづくりに活用します。	犯罪件数減少件	<主な主体> 町
○音の出る道路事業 東海道線の駅の発車ベルのように、インター境線等の中井町の主な道路の要所に音の出る装置を設置します。	通行車両台	<主な主体> 町

プロジェクト4【里山と農のある風景づくりプロジェクト】

○中井の財産である里山、里川の風景を維持し、また再生を目指します。

具体的な施策	重要業績評価指標	備考
○荒廃地管理協働事業 荒廃している緑地や丘陵地、河川にヤギ・羊を放牧する。また、荒廃農地を活用し田んぼアートや田んぼドッジボールなどを実施します。	放牧地 ○a 協働管理農地○○a	<主な主体> 農家、山林管理者、町
○農の仕事事業 眺めの良い丘陵地にある耕作放棄地を希望する人に貸与し市民農園として活用します。 農家が先生となり野菜、果樹、酪農、花卉等の農業体験を実施する（農塾事業）。その卒業生が市民農園で活躍できるように促します。	市民農園○○a 農塾活躍卒業生○人	<主な主体> 町、町民、農家